

世界における日本の世論と投票行動

大学における実証政治学研究入門

加藤言人

明治大学政治経済学部

東京都立大泉高等学校出張講義

2024年3月19日

自己紹介

今日の講義について

日本の世論を比較政治する

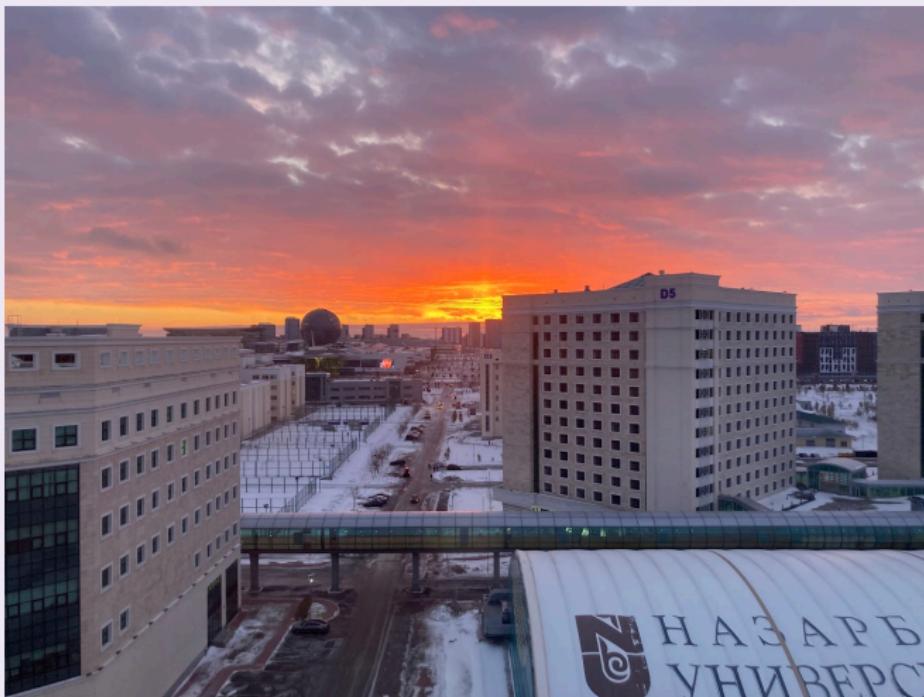
世論・投票行動を研究する

本日のまとめ & 大学・学部紹介

自己紹介

- ・名前：加藤言人（かとうげんと）
- ・出身：兵庫県神戸市
- ・専門：政治過程論（世論・投票）・政治学方法論（実証・数理）
- ・住んだことのある場所：
 - ・神戸市（～高校）：10年以上
 - ・東京都（大学・大学院・現在）：7年くらい
 - ・バーモント州／アメリカ（交換留学）：約1年
 - ・カリフォルニア州／アメリカ（大学院留学）：約5年
 - ・コネチカット州／アメリカ（博士研究員）：約1年
 - ・アスタナ／カザフスタン（大学教員）：約1年
- ・これまで訪問した国（訪問順）：
 - ・イギリス/オランダ/オーストラリア/台湾/トリニダード・トバゴ/
 - ・ウズベキスタン/イラン/スウェーデン/デンマーク/ドイツ/
 - ・オーストリア/ケニア/ロシア/カナダ/中国/イスラエル/韓国

自己紹介



自己紹介

今日の講義について

日本の世論を比較政治する

世論・投票行動を研究する

本日のまとめ & 大学・学部紹介

今日の講義で目指すこと

今日の講義では、次のタスクについて知り・実践することを目指す。

- ・日本の世論・投票行動を、海外との比較から位置づける。
- ・現実社会におけるパズルを発見し、問い合わせを立てて、それに対する仮の答え・説明（理論）を構築・検証する。

今日の講義で目指さないこと：

- ・日本人の政治意識・行動を、その固有性を前提に語る。
- ・現実社会における問題について、何をするべきか結論を出す。

自己紹介

今日の講義について

日本の世論を比較政治する

世論・投票行動を研究する

本日のまとめ & 大学・学部紹介

世論における比較政治論的視座

様々な国で様々な争点について、**世論** (Public Opinion) は市民の選好の集合体として形成・表明される。



出典：前大阪市議会議員大内けいじ HP



出典：New York Times

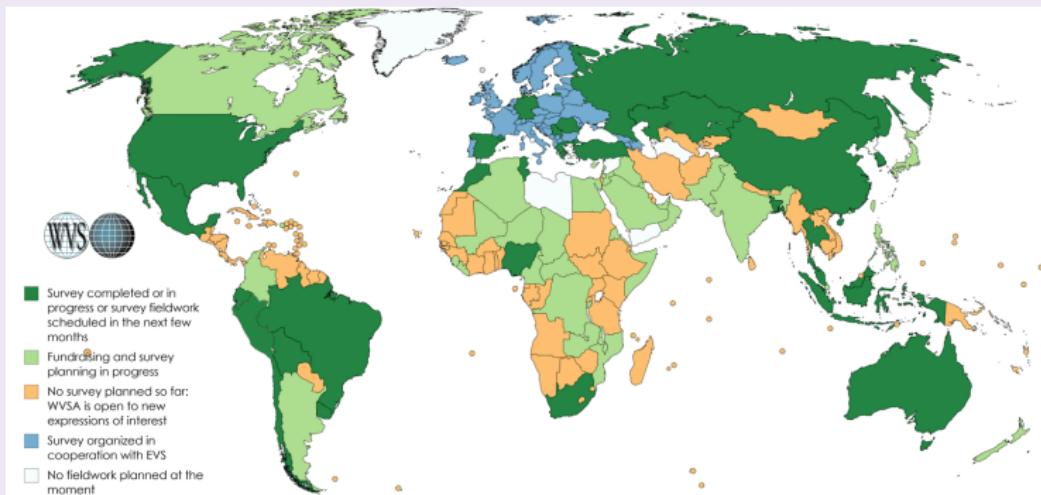


出典：RadioFreeEurope RadioLiberty

各国・地域の世論は**比較可能**か？

世論を比較する方法

世界価値観調査 (World Values Survey: WVS) : 共通の設問を用いた世論調査を、多くの国で同時期に行う。調査結果はウェブサイトから一般に公開されている。第1波（1981年）から5年毎に実査が行われ、第7波が2021年に完了。



出典: www.worldvaluessurvey.org

世論を比較する方法:WVS

Inglehart and Welzel (2005) は、様々な社会・政治的価値観設問に対する回答パターンから、Traditional versus Secular-rational、Survival versus Self-expressionという、2つの大きな価値観の軸を抽出した。

TABLE 2.2. Two Dimensions of Cross-Cultural Variation: Individual-Level Analysis

	Factor Loadings
Traditional values emphasize the following (Secular-rational values emphasize the opposite): ^a	
God is very important in respondent's life.	.70
It is more important for a child to learn obedience and religious faith than independence and determination. (Autonomy index)	.61
Abortion is never justifiable.	.61
Respondent has strong sense of national pride.	.60
Respondent favors more respect for authority.	.51
Survival values emphasize the following (Self-expression values emphasize the opposite): ^b	
Respondent gives priority to economic and physical security over self expression and quality of life. (4-item Materialist/Postmaterialist Values Index)	.59
Respondent describes self as not very happy.	.59
Homosexuality is never justifiable.	.58
Respondent has not and would not sign a petition	.54
You have to be very careful about trusting people.	.44

Note: The original polarities vary; the above statements show how each item relates to the given factor. Total N = 165,594; smallest N for any of the above variables is 146,789.

^a First factor explains 26 percent of total individual variation; secular = positive pole.

^b Second factor explains 13 percent of total individual variation; self-expression = positive pole.

Source: World Values Survey data from 125 surveys carried out in three waves in 65 societies.

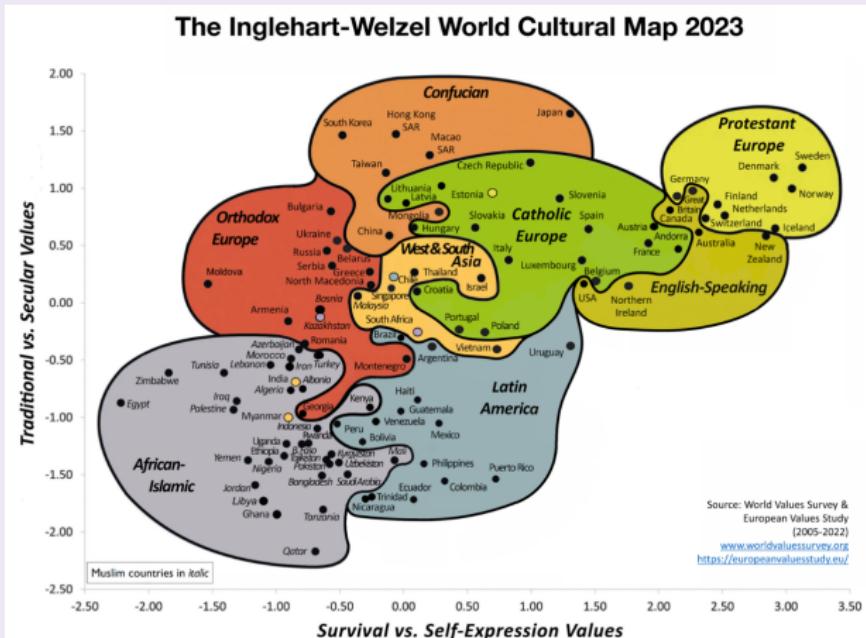
世論を比較する方法:WVS

各価値観の極が示す内容は、次のようにまとめられる。

- **Traditional**: 宗教、親子関係、権力への服従、および伝統的な家族觀を大事にし、離婚、中絶、安樂死、自殺などを否定する。これらの人々は、愛国心（National Pride）が高い傾向もある。
- **Secular-rational**: Traditional の逆。宗教、伝統的家族觀、および権力を重視せず、離婚、中絶、安樂死、自殺などを比較的許容する（自殺が多いわけではない）。
- **Survival**: 経済的、身体的な安全保障を重視する（物質主義的 Materialistic）。自民族中心主義や、社会信頼や他者への許容度の低さと関連する。
- **Self-expression** 自己表現や QOL を重視（脱物質主義的 Post-materialistic）。環境保護、外国人の許容、セクシュアル・マイノリティの許容およびジェンダー平等の重視、そして政策決定プロセスに対する様々な形での参与に積極的。

世論を比較する方法:WVS

各次元における設問群の回答を国ごとに平均すると、各国の**価値観（文化）の地図**が描ける。



出典: www.worldvaluessurvey.org

世論を比較する方法:WVS

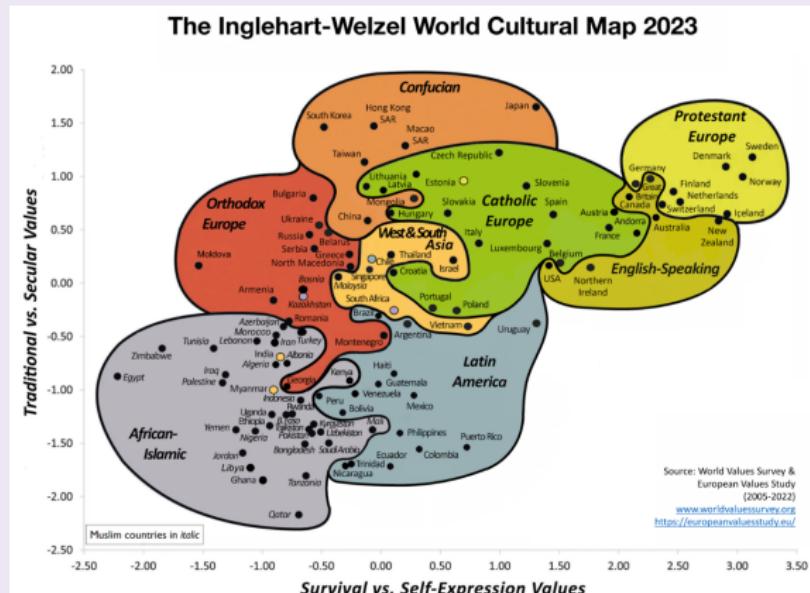
価値観（文化）の地図は、時系列の変遷を辿ることもできる。

<https://youtu.be/ABWY0cru7js>

出典: www.worldvaluessurvey.org

世界における日本の世論:World Culture Map 2023

日本人の価値観は、どのように捉えられているか？



出典: www.worldvaluessurvey.org

直感的に納得がいくか？

世界における日本の世論：国際比較世論調査の可能性と限界

国際比較世論調査を用いた Culture Map の様なアプローチには、どんな可能性と限界があるか？

- ・ 日本の世論を理解する上で、このようなアプローチには**どんな可能性・有用性**があるか？
 - ・ 伝聞・直感やメディアの報道内容などに基づいて世論を語る場合と比べたら？
 - ・ 日本で行われる世論調査だけを用いた場合と比べたら？
- ・ このようなアプローチを通して日本（もしくはどこかの国を）の世論を語ることには**どんな限界**があるか？
 - ・ 得られた結果に納得がいかないことはないか？

[https://forms.gle/
fVueaLpwNdHV7oyx5](https://forms.gle/fVueaLpwNdHV7oyx5)



世界における日本の世論：国際比較世論調査の可能性と限界

国際比較世論調査を用いた研究には、（少なくとも）以下のようなアドヴァンテージがあると考えられる。

- ・ **正確性**：代表性のあるサンプルを用いた世論調査をすることで、一般人の選好・態度の分布をより正確に捉えることができる。
- ・ **相対性**：「日本の世論はこうなっている」という、絶対的な価値判断を下す代わりに、（日本の）位置づけをより相対的・客観的に捉えることができる。
- ・ **探求可能性**：国際比較世論調査のデータは一般に公開されている。誰でも、そのデータを分析して各々の視点から理解を深める（または誰かの主張を検証する）ことができる。

世界における日本の世論：国際比較世論調査の可能性と限界

西澤（2007）は、国際比較世論調査を用いた研究について、以下のような限界を指摘する。

- ・ **分析概念の比較可能性** 同じ質問・概念は、それぞれの国で同じ意味を持つのか（例：イデオロギーにおける「右一左」、「宗教」という言葉が持つ意味など）。
- ・ **共通の研究関心**: 調査代表者が関心を持つテーマは、どの国にとっても重要か, i.e. Secular-rational - traditional, self-expression - survival といったような概念（および関する設問）は、各国の社会・政治にとって重要な意味を持つか。
- ・ **サンプルの代表性**: 調査の実施対象国、実施タイミング、実施対象者などは、その国・時点を「代表」しているか。

自己紹介

今日の講義について

日本の世論を比較政治する

世論・投票行動を研究する

本日のまとめ & 大学・学部紹介

政治・社会を研究する

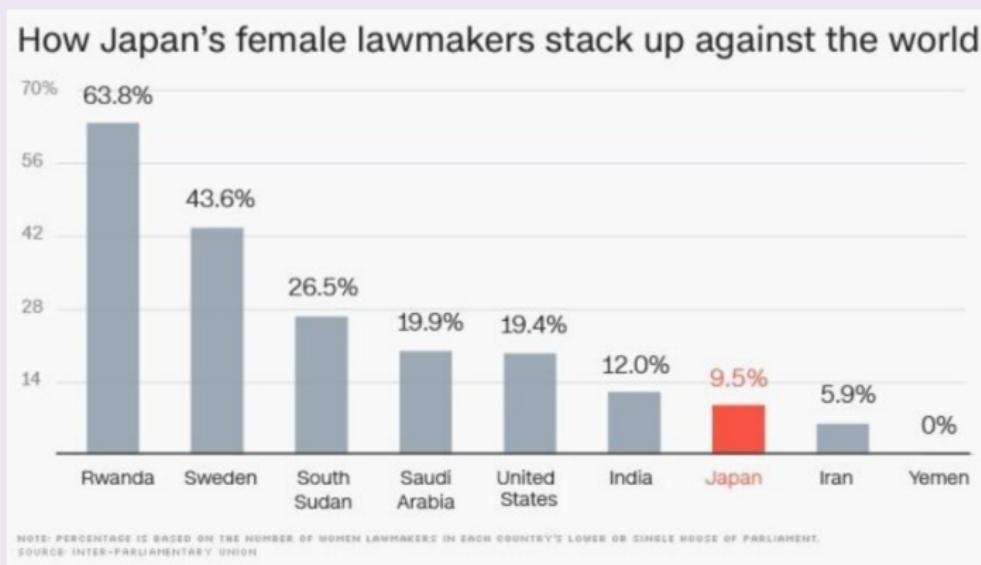
実証社会科学（incl. 政治学）の研究手続き：

1. 現実に起きている事象・行動を観察する。
2. **パズル**を見つけて**問い合わせ**をたてる。
3. **理論**を考えて**仮説**を導出する。
4. 仮説を**検証**する。（ \Rightarrow 1もしくは2もしくは3に戻る）

目的は、世の中の仕組みを理解すること。 \Rightarrow 直接「良い」「悪い」は決められない。

納得がいかない！＝パズル

日本は Secular-rational value と Self-expression value が高め。これは、**伝統的家族觀を打破し男女平等を促進するはず**。しかし、（衆議院における）女性議員の割合はサウジアラビアより低い…



出典：CNN (2016)

何が納得がいかないのかを特定する＝問い合わせ

今触れた「納得がいかない！」ことを、一文で完結にまとめてみよう。

(例) 日本人の男女権利平等意識は低くないように見えるのに、なぜ女性の政治進出は進まないのか？

納得がいくような説明を考える＝理論

「日本人の男女権利平等意識は低くないよう見えてなのに、なぜ女性の政治進出は進まないのか？」という問い合わせについて、**納得のいく説明**を考えよう。

- ・意識の測り方に問題がある？
- ・人々の政治意識と政治行動は一致するのか？
- ・人々の意識・行動以外に、政治進出を規定する要因は？

[https://forms.gle/
9dxQcP7D3ttatAdx5](https://forms.gle/9dxQcP7D3ttatAdx5)



納得がいくような説明を考える＝理論（例）

有権者の政治行動は、**政治意識・選好を直接反映していない**かもしれない。

- ・ **バンドワゴン効果**：「勝ち馬」に乗りたい、「自分ではなく他人のため」といった心理的インセンティブ (Morton and Ou, 2015).
- ・ **戦略的差別**：「勝ちそうな候補者」の中から、投票先・支援先を選ぶ（自分の一票を無駄にしないため）(Bateson, 2020).
- ・ **沈黙のらせん理論**：自分の意見が**少数派だと感じると、意見を言わない（行動しない）**ようになり、それが少数派と感じさせ…といったような悪循環が起きるプロセス (Noelle-Neumann, 1974).

本当は多数派なのに、少数派だと誤認識しているとすれば…

観察可能で具体的な理論的予測を考える=仮説

女性候補者に対する投票行動に絞って考える。

もし、有権者の**多数派が女性候補者を好んでいる**にも関わらず、**女性候補者を実際に支持・支援する人は少数派**だとすれば、女性の政治進出が起こりにくい理由になるだろう。

先程の理論を適用して、現実社会で観察することが可能な、具体的な予測をしよう。どんな条件が揃えば、選好・意識と支持・支援の間にギャップが生まれるだろうか？

日本の有権者は、男性候補者より女性候補者を好む傾向にあるが、同時に、周りの人は女性候補者より男性候補者を好むと認識する傾向にある。

仮説と一致するパターンが現実に現れるか確かめる＝検証

「望ましい」候補者はどちらか？

conjoint_pref_1. 【ケース1】 次の2人の人物のうち、どちらがより小選挙区選出の衆議院議員として望ましいと思いますか。もし、どちらが望ましいかはっきりとは言えない場合でも、どちらか一方、あえていえばより望ましいと思われる方を選んでください。

	人物1	人物2
性別	男性	女性
所属政党	立憲民主党	公明党
年齢	35歳	35歳
政治経験	国会議員1期	経験なし
最終学歴	大学院卒	大学院卒
結婚歴	既婚	既婚
子の年齢（一番下）	18歳以上	6歳未満
居住状況	親から遠くに居住	親の近くに居住

どちらが望ましいと思うか

- 人物1
- 人物2

仮説と一致するパターンが現実に現れるか確かめる＝検証

「勝利しそうな」候補者はどちらか？

conjoint_elec_2. 【ケース2】 次の2人の人物のうち、どちらがより衆議院議員選挙の小選挙区で勝利しそうだと思いますか。もし、どちらが勝利しそうかはっきりとは言えない場合でも、どちらか一方、あえていえばより勝利しそうと思われる方を選んでください。

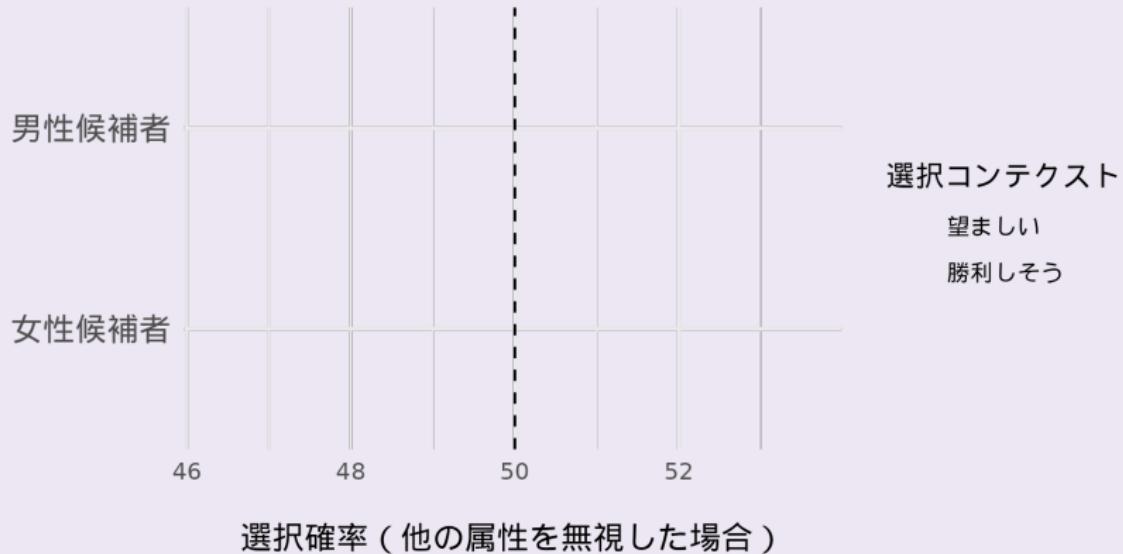
	人物1	人物2
性別	男性	女性
所属政党	国民民主党	国民民主党
年齢	35歳	65歳
政治経験	経験なし	国会議員1期
最終学歴	高校卒	高校卒
結婚歴	未婚	未婚
子の年齢（一番下）	子なし	6歳未満
居住状況	親の近くに居住	親と共に居住

どちらが勝利しそうと思うか

- 人物1
- 人物2

仮説と一致するパターンが現実に現れるか確かめる＝検証

2022年1月、オンラインで募集した1803人の実験参加者に各3回×2=合計6回選択をしてもらい、合計21218の候補者プロフィールを評価してもらった。



仮説と一致するパターンは見られたか？

新たな研究を始める

- ・女性議員の政治進出に関する、別の「納得がいかない！」はあるか？⇒ 新たなパズル・問い合わせ
- ・女性議員の政治進出が進まないことを説明する、別のロジックはあるか？⇒ 新たな理論
- ・今回紹介した理論はこの研究結果で「証明」されたか？
⇒ NO!（なぜ？）
 - ・理論から導出できる別の含意を考えよう ⇒ 新たな仮説
 - ・同じ仮説を検証する別の方法はあるか？

自己紹介

今日の講義について

日本の世論を比較政治する

世論・投票行動を研究する

本日のまとめ & 大学・学部紹介

本日のまとめ

1. 日本の世論を外国の世論と比較する方法
2. 世論と投票を実証的に研究する方法（女性の政治進出を例に）

(実証的) 研究では、次のことを繰り返す！

- ・ 関心ある事象を、**客観的・相対的**に見つめて特徴を把握する。
- ・ 説明がつかない**パズル・問い合わせ**を特定し、その説明（**理論**）を仮説を通して**検証**する。

「世の中はこうなっている」「だからこうするべきだ」という答え・意見を述べるのは簡単。しかし、大学の学びでは「**本当はどうなっているのか**」「**こうするべきと思った根拠は本当にあるのか**」について今一度考えて、**答えに辿り着くのは思ったよりずっと難しい**ことに気づいて欲しい。

大学・学部の簡単な紹介

明治大学政治経済学部（定員 1150 人）

- ・ 学科：

- ・ 政治学科（290 人）⇒ 政治学 & 社会学
- ・ 経済学科（695 人）⇒ 経済・財政理論 & 政策 & 歴史
- ・ 地域行政学科（165 人）⇒ 行政学 & 地域運営・活性化の実践

- ・ 場所：

- ・ 1-2 年次は和泉キャンパス（明大前）
⇒ 基礎・外国語・健康運動科学科目／学科基本科目／教養演習
- ・ 3-4 年次は駿河台キャンパス（御茶ノ水／神保町）
⇒ 学科基本科目／応用科目／専門演習（ゼミ）

大学・学部の簡単な紹介

- ・国際化：

- ・Global Career Development (GCD) プログラム（2022～）
- ・留学生の受け入れ・海外留学する人が近年↑
- ・海外出身・海外学位取得の教員も増えている

- ・進路：

- ・新卒で就職する人が9割近く（2022年度卒実績）
⇒ 職種は金融・メーカー・ITから国家・地方公務員まで幅広く
- ・大学院進学者は1%未満だが、明治大学に加えて国内トップ大学から海外大学まで様々実績あり（明治大学出身の教員も多くいます）
- ・（政治経済学部パンフレット「卒業生からのメッセージ」に都立大泉高校出身で現・明治大学職員の先輩からのメッセージが載っているので、良ければ読んでみてください）

具体的にこれと定まっていなくても、政治・経済の分野に興味があり、その学びを能動的に深めてみたい学生を広く歓迎します。

Thank you for your attention!

本日のスライドへのリンク

<https://forms.gle/9dxQcP7D3ttatAdx5>



また、よければ受講者アンケートにも答えてもらえると嬉しいです
(任意)。

Bateson, Regina (2020) "Strategic Discrimination," *Perspectives on Politics*, Vol. 18, No. 4, pp. 1068–1087, December, DOI:
<http://dx.doi.org/10.1017/S153759272000242X>.

Inglehart, Ronald and Christian Welzel (2005) *Modernization, Cultural Change, and Democracy: The Human Development Sequence*, Cambridge: Cambridge University Press, DOI: <http://dx.doi.org/10.1017/CBO9780511790881>, DOI:
<http://dx.doi.org/10.1017/CBO9780511790881>.

Morton, Rebecca B. and Kai Ou (2015) "What Motivates Bandwagon Voting Behavior: Altruism or a Desire to Win?" *European Journal of Political Economy*, Vol. 40, No. Part B, pp. 224–241.

西澤由隆 (2007) 「『比較選挙研究』のすすめ」, 『レヴァイアサン』, 94–100 頁.

Noelle-Neumann, E. (1974) "The Spiral of Silence: A Theory of Public Opinion," *Journal of Communication*, Vol. 24, No. 2, pp. 43–51.